

平成14年度第2回岡山市総合政策審議会都市・交通部会の主な意見

- 1 日 時 平成14年8月9日（金）午後1時30分～3時18分
- 2 場 所 市庁舎3階第3会議室
- 3 出席者 委員14名中10名出席  
岡山市：山内都市整備局長、広瀬まちづくり担当局長、  
池上都市開発部長、青木公園緑地部長、小寺土木部長 ほか  
事務局：高橋参事 ほか
- 4 傍聴者 5名
- 5 会議概要  
(1) 傍聴の許可  
(2) 議題の説明、質疑応答及び事務連絡

6 主な意見

1 保存樹の指定について

- 保存樹のプレートに樹齢も記したらどうか。
- 樹齢を正確に測ることは技術的に困難であり、伝承・育成状況等から樹齢を推定しているのが一般的であろう。
- 保存樹として指定を受けることにより、持ち主に何らかのメリットがあることも大切であるが、地域の人たちに周知され、愛される存在になり、子供たちの心を育む存在になっていくことも大切なことではないか。
- （保存樹指定候補について、うち1本は個体としてみると樹容に問題があるが、他の樹木と一体となって社叢（神社の森）を形成しているため、すべて指定することで承認）

2 岡山駅西口広場及び東西連絡自由通路の整備について

- 高齢者等にとっては階段を下ることも苦痛であるため、下りのエスカレーターも必ず設置してほしい。
- 今の構内は、色使いも含め、よそから来た人がその場でよくわかるような誘導標示がなされていない。構内誘導だけでなく、名所などへの行き方がわかりやすく標示されるなどのトータルな工夫をしてほしい。
- 駅の整備などはたいへん大きな問題であり、トップも含めた関係機関相互のきちんとした合意のもとに事業を進めてほしい。
- 岡山駅は岡山の顔でもあり、交通の結節点として、いかに機能的で利用しやすい駅にしていくかということが大事である。
- 駅構内の機能を考えていくことは、非常に専門的な領域であり、プロ集団が作ったたたき台をもとに、十分に利用者の意見を聞くようにしてほしい。
- 自転車の通路を設けてほしい。
- 林原のところまで歩かないと団体バスに乗ることができないのは大変不便である。
- レイアウトの検討が今後なされていくにあたっては、煮詰まった段階で当部会なり市民に示すのではなく、ある程度意見が出せるような形で示してほしい。
- 今の岡山駅の実態はノーマライゼーションとはほど遠い。利用者の立場に立つということとは、想像ではなく、実際にその立場の人たちの意見を取り入れて活かすということである。